



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

2025年6月18日
第3回住宅分野における建設技能者の
持続的確保懇談会

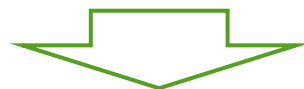
1. 現状・課題について

- (1) 課題としては、皆様と同様、将来に向けての生産力不足・大工不足である
(ただ、大工の伝統技能の継承という意は外すとすると、どのくらい各社、大工の生産能力が足りないという認識は、はっきりと木工住協として把握していない)
⇒各社まかせである。また、将来の職人不足数だけでなく、将来の顧客数設定の把握もマチマチ。
- (2) 木住協として、入職希望者への業界アピール不足・魅力不足
- (3) 一般論として、各工務店、会社等、労働条件や、働く人の意識が、まだ様々である。
- (4) 生産力を維持するための対策が、大工工程の細分化・役割設定（プレカット・建て方、フレーミング等での役割分け）として、
⇒大工を育てるとの一部、矛盾。
⇒どう、解決していくか、試行錯誤。
(訓練校としては、全部教えるが、実作業は一部だけでも含む)
- (5) 大手と地方工務店の入職対策の差 (余力に当然、差がある)

2. 木住協として取り組んでいること・ 取り組もうとしていること

① 業界としての入職希望者へのプレゼン活動

(1) 総合高校・工科高等学校等への訪問。 現実的な情報交換



- ・ 各高校の先生お話を聞くと、かなり現場で御苦労されている。
(入学生徒数・授業数及び、カリキュラム・授業内容・進路相談等多岐)
その内容を含め、情報共有。
- ・ かなりの企業様が、工業系高校には採用を念頭に各社訪問、関係強化に動いている
- ・ 県庁所在地名の工科高等学校等生徒⇒地元企業就職希望多い等々
- ・ デュアルシステム（社内訓練校）、インターン実施、過去の経験者から過去の経験者からのアドバイス、情報交流会が効果大

- (2) 訓練生や先輩経験者等、実体験を踏まえての学生意見交換の場をつくっていく
- (3) 木造住宅 注文・大型分譲・物件他、現地見学会
(上棟、屋根下地完成までは見たことがあるが、ボード貼りから先の作業木造住宅完成までの一連の流れを見たことがない)
- (4) 業界としてのプレゼン案検討、資料ツール作成
→ 地元企業・工務店との連携
- (5) 木住協の動画等、教育教材・紹介、木住協各種成果冊子の提供
- (6) 文化祭等での、応急仮設モデル、モバイル住宅建て方及び、現地での声紹介
- (7) 木住協・各エリア支部踏まえての、教育機関への訪問

② 木工住協としての情報共有・展開・推進活動

- (1) 登録基幹大工講習・CCUSキャリアレベル向上支援
⇒「登録大工基幹講習」実施団体としてCCUS推進
- (2) 社員大工制度を取り込んだ企業・移行した企業の情報収集、更なる改善案議論
社員大工制度への取り組み・移行する上での問題点抽出
社員大工制度への取り組み・問題点の撲滅方法検証
- (3) 上記、社員大工制採用の成功・失敗事例等、情報を木住協広報誌で紹介・情報共有
⇒ 木住協広報誌「木芽」で紹介



3. 今後（10年）にむけて、取り組んでいること 小・中学生への対応

(1) 中学生への業界紹介、ふれあい方の検討

(2) 「木のある暮らし作文コンクール」実施
テーマ：

『まわりにある木のことを作文にしてみよう』
(小学生対象 → 低学年の部、高学年の部)

脱炭素社会 SDGsの実現を考えるきっかけに!

第28回 木のある暮らし 作文コンクール

応募締切 2025年 9月5日(金) 消印有効

作品まってるよ!

テーマ 作文にしてみよう

応募資格

- 低学年の部・小学1～3年生 65ひにこれに添する学年・年齢
- 高学年の部・小学4～6年生 65ひにこれに添する学年・年齢

応募のきまり

- 作文のタイトルは自由
- 原稿用紙に本人手書き
- 学校名、学年、名前を記入
- 文字数は200字～1,200字程度

応募方法

- 応募は学校単位・個人どちらでも応募可。応募方法は3つ。

審査員

後援

協賛 日本木造住宅産業協会

4. その他、未来に向け取り組もうとしていること

- (1) 行政・業界団体・教育機関、関連委員会との更なる連携強化
- (2) 個社等・経営側支援策の提案
具体的対策案も同時に、協議していくのか
施策実行型のシュミレーション（工務店経営支援策等）
- (3) 業界各団体同士間の更なる連携強化・情報共有